

議案審議

一般会計予算や条例の一部改正などに対する
質疑応答の内容を、要約して紹介します。

令和6年度一般会計歳入歳出決算

◎学校教育施設整備基金について

問 高橋七重議員
この基金を使う時はどのような場合か。

答 教育課長
いずれ学校の様々な設備が老朽化し、将来的に一度に多額の費用を捻出しなければならぬ更新時期を迎える。これに備える資金として現在も継続して積立している。

◎生コン支給事業について

問 高橋七重議員

令和6年度の決算収支差額が、約2億7千81万円で例年並みの黒字決算。一方で、住民の要望の多い生コン支給事業は、例年より少

ない決算額。せめて、例年並みの事業実施はできなかったのか。

答 総務課長

生コン支給事業は、毎年各行政区から多数の要望が出ているが、担当課で現地を確認し、事業の優先順位を定め予算化している。財源は、過疎対策事業債を充当している。

◎ジュピアランドひらた遊具賃借料について

問 高橋七重議員

年間396万円のレンタル料を支払っていることに多くの住民は驚く。年間の使用状況を鑑み、5年のレンタル期間が終わる前に、次の契約を考えるべきではないか。

答 企画商工課長

遊具賃借期間は、令和

10年9月までの7年間。契約終了後の延命化、更新も含め、利用方法などを今から検討したい。

◎デマンドバス等について

問 高橋七重議員

「ライドシェアの導入と併せて、デマンドバス、乗り合いバス等の導入について検討する」と答弁していたが、この1年どんな検討をしたか。

答 企画商工課長

高齢者の移動支援の一つ、デマンドバスを本村でも委託事業による実施を協議したが、ドライバの確保ができないため進展に至らなかった。

「交通機関が無いから」という理由で自治体を取り組んでも、必ずしも課題解決になるとは限らず、地理的状況や利用者のニーズなど、さまざまな要素を加味した上で引き続き慎重に検討を行う。

◎令和6年度決算書等について

問 三本松和美議員

一般財源のほとんどが経常経費に消えている状況で、新規事業に使える余力は限られているが、今後どう対応するか。

答 総務課長

決算額の経常経費は、32億6千671万3千円。経常経費は国・県補助金など特定財源も充当している。新規事業などを実施する場合、国・県補助金や交付税措置率の高い地方債を活用している。

再問 三本松和美議員

- ① 経常経費の見直しについて。
- ② 特に重点的にしている部分は。
- ③ 基金については、特に重視する活用方法は。
- ④ 今後大きな事業を展開していく上で、どのような補助金や起債を活用していくのか。

再答 総務課長

① 一般的な事務経費については、常日頃職員も心掛け経費節減に努めている。

② 経費節減は、小さな取り組みを継続しながら経費節減をしていきたい。

しかし、職員の賃金について、今後上昇することが見込まれるので、財源も適正に確保したい。

自主財源の確保は、村の普通財産の貸付、売却等について積極的に取り組んでいる。

③ 基金に関しては、村は過去最高の金額を積み立てているが、平田村全体として行政需要がどこにあるのかを見極めながら積み立てたい。

④ 最近新たに設定されている事業は、充当率が100%で、交付税措置率が90%、もしくは、充当率が90%で、交付税措置率が50%、高い交付税措置率の設定されている起債メニューがある。そういった情報を常に収集しながら財源確保に努めている。

再々問 三本松和美議員

村民へ色々な事業が展開されているが、数百万程度のももあり、100〜200万プラスすれば十分に対応できる財政力を持っているのではないかと踏まえて柔軟に行って欲しい。

防災道の駅であれば、どのような補助金が活用できるか。

再々答 総務課長

財政力については、平田村の財政力に応じた、行政需要に応じた、住民の要望に応じた予算編成を行い有効的に活用していきたい。道の駅に関しては、議案審議外ということで答弁は控える。

◎観光振興事業について

問 三本松和美議員

令和7年度の決算では、7千83万円をジュピアに支出。特に、平田村産業振興公社指定管理料と運営費補助で6千100万円計上し

ている。

また、令和6年度事業収
支報告では、収入は村補助
金5千700万円（55%）、
事業収入4千761万円

（45%）。支出は人件費5千
66万円（51%）、その他経
費4千861万円（49%）。
収支差額は、増益だが村

補助依存大である。入園者
増数は、4千710人で約
7.8%増。そこで

① 事業収入の拡大をどう
考えているか。

② 村補助の依存度低減を
どう考えているか。

③ 支出の適正化をどう考
えているか。

④ 来場者増加を活かす仕
組みをどう考えているか。

答 企画商工課長

① 事業収入は運営面にも
影響があるため、収入増
加のための検証は絶えず
行っていく。

② 事業収入増加はもちろ
ん、収支を含めた産業振
興公社としての企業努力
も必要である。

③ 費用対効果などを十分
検証し、課題も把握しな
がら、適正化に努めてい

く。

④ 来園者は交流人口であ
り、関係人口を移住人口
に繋ぎたい。

再問 三本松和美議員

① 村の依存を減らすこと
が大事であり、毎年の事
業収入割合をどの程度に
高めるのか。

② 依存を長期化すること
で、村財政を圧迫する。
補助金の上限定額などル
ールを作ることにも必要で
は。

③ 人件費が半分を占める。
人員体制の適正化、業務
適正化についてどうか。

④ 来場者の単価向上を具
体化すべき。

再答 企画商工課長

① 施設等の問題から、通
年の安定的な集客を見込
む必要がある。秋のイベ
ントも考えていきたい。

② 産業振興公社の補助金
は事業運営に必要な人件
費に支出している。
毎年の事業収益を基に算
定していきたい。

③ 適宜検証し取り組んで
いきたい。

④ PRは必要であると考
える。今後増収に向けた
展開をしていく。

討 論

反対 高橋七重議員

突然出されたジユピアラ
ンドのステージ建設はあま
りにも建設費を要するため
中止になったが、無計画な
事業と言わざるを得ない。

村長はジユピアランドは状
況を見ながら都度実施して
いくものだと言ってはばか
らなかった。公社化した組
織にこれまで同様予算をつ
ぎ込むのは見過ごせない。

さらに、住民の要望に十分
に応えず、基金への積み立
てを優先させていることも
納得のいく行財政の運営と
は言えない。よって反対す
る。

賛成 関根 猛議員

一般会計の歳入額は前年
度比1億円減少したものの、
国民健康保険特別会計、後
期高齢者医療特別会計、介
護保険事業特別会計への繰
り出し金額は、前年度比3
億8千万円増の2億1
千427万5千円になって
いる。また、財政調整基金

に、1億4千400万、公
共施設等総合管理基金に1
億円、国保支払い準備基金
に1千万円積み立てている
が、財政調整基金は今後起
こりうる景気の悪化や災害
時等の支出に備えるもので
あり、公共施設等総合管理
基金は、公共施設の解体や
維持費として必要不可欠。

一般会計の単年度収支額は
5千184万8千円の赤字
であるが、財政調整基金を
加味すれば、9千217万
3千円の黒字であり、収支
バランスの取れたものと思
われる。全体的に見て、限
られた財源を重点的かつ効
率的に配分を行い、村民の
生活支援、及び村民のニ
ーズに対応した予算執行と思
われること、将来の自主財
源、依存財源の歳入減少を
見込んでの基金積み立てを
している事から賛成する。

**令和7年度平田村一般
会計補正予算**

◎展望デッキについて

問 高橋七重議員

来場者の暑熱対策であれ
ば、樹木で日陰を造る、東

屋を造る方法もあるが。

答 企画商工課長

あじさい園展望デッキは、
東屋を数カ所整備すること
も検証したが、東屋1棟の
整備も相当な費用がかかり、
数カ所の整備は非常に厳し
いこと、管理面も考慮して
判断した。

再問 高橋七重議員

展望デッキは階段を使用
する2階建ての造りになっ
ている。バリアフリーも考
えているようだが、スロー
プにすると、さらに横幅が
必要な建物になる。これ
で自然に溶け込む造りにな
るのか疑問である。これも突
如出てきた計画であるとし
か思えない。

再答 企画商工課長

高い場所から眼下を収め
る里山の風景が目前に広が
り、下にアジサイ園をみる
ことができる。これが誘客
にもつながることを踏まえ
ての計画でもある。

問 関根 猛議員

あじさい園には、あまや

どり（休憩・飲食兼展望デ
ッキ）及び東屋2棟が設置
されている。更に展望デッ
キを新設する必要性と、あ
じさい園の開園期間が短い
こと、令和7年度の来園者
及び、料金収入が減少して
いること等を考慮した上で
の計画であるのか。

答 企画商工課長

近年の猛暑が、熱中症の
発症リスクを高める要因と
もなっていることから、来
園者の健康上の安全面を確
保することを目的としてい
る。

来園者、料金収入が昨年
より減少したことは、熱中
症警戒アラートの発令によ
る影響もあると推測される
が、それでも多くの来園者
が訪れている施設であるの
で、安全面確保、誘客拡大
と秋の紅葉シーズン活用も
見据えた整備をしていきた
い。